『プリンセスは、姫でありたい。』

紫　まひろ

【登場人物】

ヒメカ・・・主人公。ふわふわ系女の子（可愛い）魔術師。
喋り方は気が抜けてる/ふわふわしてる（眠そうな感じ）。
かわぼ系。

リアム・・・男子パーティーメンバー1。剣士。
俺様系/ナルシスト/おちゃらけ。

ミチル・・・男子パーティーメンバー2。タンク。
親方系/体育系（尽くし）。

ハヤト・・・男子パーティーメンバー3。弓・僧侶。
眼鏡/賢い系。

○とあるダンジョン内

モンスター、ヒメカを襲おうとする。

ＳＥ：モンスターの鳴き声

ヒメカ　「きゃあ！」

リアム、剣で敵を斬る（ＳＥ）

リアム　「よっと……大丈夫か？　ヒメカ」

ヒメカ　「リアムくん……！　びっくりしたよ～！　助けてくれてありがとう」

リアム　「ふっ、この程度のモンスター、俺の敵じゃない。
危ないから、ヒメカは俺の後ろに隠れてろ。
なにがあっても、俺が護ってやるよ」

ヒメカ　「わぁ～……！　頼もしいなぁ～。頼りにしてるね、リアムくん」

リアム　「ふんっ、任せておけ！」

ヒメカ　「ふふふっ」

ＢＧ：複数の足音

ヒメカ　「……それにしても、私たち、
今ダンジョンのどの辺まで進んで来たんだろう……
だいぶ長い間歩いている気がするけど……ふぅ……」

ミチル　「ヒメカ、大丈夫か？　疲れてしまったなら、すぐに言ってくれ。
休憩も取れるし、もしもの時は、俺が抱き上げて運んでやるからな」

ヒメカ　「……！　ありがとうミチルくん……！　でも大丈夫、まだまだ元気だから。
心配かけてごめんね？」

ミチル　「いや、謝らないでくれ。女の子を気遣うのは、
男として当然のことだからな」

ハヤト　「皆さん、おしゃべりをしている場合ではありませんよ。
いつ何時どんな敵が出てくるかわからないんです。
気を引き締めて進まないと……」

ヒメカ　「あっ……！　うん！　そうだよね……！
ハヤトくんの言う通り、気を引き締めて……あれ？」

ミチル　「ん？　どうした、ヒメカ」

ヒメカ　「あれ！　あれ見て！」

ミチル　「ん？　……あれは……」

四人の前に大きな石の扉が立ち塞がる。

四人、立ち止まる。

ヒメカ　「おっきな扉だ～！」

リアム　「石の扉か……ん～……鍵穴やハンドルのようなものは見当たらないか……」

ヒメカ　「ん～……どこかに、なにか鍵の代わりになるようなものがあるのかな～？」

ハヤト　「（気づき）っ！　見てください。ほら、あそこです。扉の上」

ヒメカ　「あ～！　火のついてないトーチだ！
なんであんなところにあるんだろ～？」

ハヤト　「……お待ちください」

ハヤト、弓を構える。

ハヤト　「ヒメカさん、この矢の先に火を」

ヒメカ　「あっ！　うん！　わかった！　『フレア』っ！」

ハヤトの持つ矢の先に火が灯る。

ハヤト　「よし。（深呼吸）……（矢を放つ）ッ！」

矢が放たれ、トーチにぶつかり火が灯る。（ＳＥ）

リアム　「っ！　トーチに火がついたぞ！」

ＳＥ：地鳴り

ミチル　「ッ！　なんの音だ……？」

石の扉が開く。

ミチル　「と、扉が……！」

ヒメカ　「すごいすご～い！　扉が開いたよ～！」

ハヤト　「どうやら、あのトーチに火を灯すことが、解錠の条件だったようです」

ヒメカ　「ハヤトくんすご～い！　よくわかったね！
弓矢も正確な位置だったし、ほんとにすご～い！」

ハヤト　「っ！　い、いえ……別に……これくらい普通のことです……
ですが、まぁ……ありがとう、ございます……」
（ＳＥ：途中でメガネを上げる）

ヒメカ　「うふふっ。よし！　それじゃあ、中に入ってみよう」

四人、扉を潜って中へと進む。（ＳＥ）

リアム　「……なんだここ……随分と広い部屋だな……」

ミチル　「そうだな……まさか、ここは……」

ハヤト　「（気づき）ッ！　皆さん！　気を付けてください！」

床の中から、大きな黒い鎧のモンスターが現れる。（ＳＥ）

ＳＥ：モンスターの鳴き声

ミチル　「ッ！　あれは……！」

ハヤト　「黒の戦士！　このダンジョンの主です！」

リアム　「とうとうお出ましか……！　ヒメカ！　お前は下がってろ！
こいつは俺たちが片付ける！」

ヒメカ　「う、うん！　わかった！　みんな、気を付けて！」

黒の戦士、向かってくる。（ＳＥ）

ハヤト　「ッ！　こちらに来ます！」

ミチル　「うおぉぉぉぉッ！（走り出す）」（ＳＥ）

ミチル　「でぇりゃあぁぁぁぁ!!」

ＳＥ：刃がぶつかり合う

ミチル　「俺の仲間に、手出しはさせないッ！」

ミチル、敵と剣を交える。（ＳＥ）

ミチル　「でぇりゃぁ！　どぉりゃぁ！　だぁぁぁッ！」

黒の戦士、ミチルに攻撃を入れる。（ＳＥ）

ミチル　「ぐッ！　ぐあぁぁぁぁぁぁぁッ!!!」

ミチル、倒れる。（ＳＥ）

ハヤト　「ミチルさん！　ッ！（駆け出す）」

ハヤト、ミチルの元へ走り出す。（ＳＥ）

ミチル　「ぐっ……ぐぅぅッ……！」

ハヤト　「（駆け寄る）ミチルさんっ！　待ってください、すぐに回復を！」

ＢＧ：黒の戦士の足音。（ハヤトのセリフ途中から）

ミチル　「（気づく）ッ！　ハヤトッ、逃げろッ……！」

ハヤト　「えっ？」

黒の戦士、いつの間にかハヤトの後ろに。

ＳＥ：モンスターの鳴き声

ハヤト　「ッ！　いつの間に――ッ！」

黒の戦士、ハヤトに攻撃を仕掛ける。（ＳＥ）

ハヤト　「（攻撃を受ける）うあッ！」

ハヤト、攻撃を受け壁まで飛ばされる。

ハヤト　「（壁に衝突）カハッ……!!　っ……（意識を失う）」（ＳＥ）

リアム　「ハヤトッ！　クソッ！　よくも……っ！　ッ！（駆け出す）」

リアム、走り出す。（ＳＥ）

リアム　「お前は！　俺が倒すッ！　っ！（高く飛び上がる）」

リアム、高く飛び上がり剣を振り上げる。

リアム　「はあああああああッ!!!」

ＳＥ：剣が砕ける

リアム　「ッ!?　嘘だろ……ッ?!　俺の剣がッ――！」

黒の戦士、リアムへ攻撃。（ＳＥ）

リアム　「ぅあぁぁッ!!（攻撃を受ける）」

リアム、地面に叩きつけられる。（ＳＥ）

ヒメカ　「リアムくん！　（気づき）っ……！」

黒の戦士、ヒメカに近づいていく。（ＳＥ）

ヒメカ　「っ……！　みんな！　起きてよ！　ねぇ！　……っ（奥歯を噛み締める）」

黒の戦士、ヒメカへ攻撃をしようとする。

ＳＥ：モンスターの鳴き声（ヒメカのセリフ直前にＣＯ）

ヒメカ　「――『ヴァイン』」

黒の戦士の体に蔦が絡みつく。（ＳＥ）

黒の戦士、動けなくなる。（ＳＥ）

ヒメカ　「大人しくしてて。っ！」

ヒメカが杖を掲げるとたくさんの魔法陣が現れる。（ＳＥ）

ＳＥ：モンスターの鳴き声

ヒメカ　「これで終わり。――『インフェルノ（エコー）』」

魔法陣からいくつもの攻撃が放たれる。（ＳＥ）

ＳＥ：モンスター叫び声（やられる）（ＦＯ）

○ヒメカの部屋

ヒメカ、パソコンの前に座っている。

ＳＥ：ゲームクリア音

ヒメカ　「……はーいＧＧ～。お疲れさま～」

ヒメカ　「（ヘッドホンを取る）っ……」（ＳＥ）

ヒメカ　「はぁ……どいつもこいつも、姫プしてくんない雑魚ばっか……つまんな～」

《ＥＮＤ》